

&lt; 認知症対応型共同生活介護用 &gt;

**評価結果報告書****地域密着型サービスの外部評価項目構成**

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4670103946
法人名	株式会社 ショコラ
事業所名	グループホーム ショコラうすき
訪問調査日	平成20年6月12日
評価確定日	平成20年8月19日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

**項目番号について**

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

**記入方法**

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

**用語の説明**

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 6月 12日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4670103946		
法人名	株式会社 ショコラ		
事業所名	グループホーム ショコラうすき		
所在地	鹿児島市宇宿町2120番地 (電話) 099-275-7075		
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成20年6月12日	評価確定日	平成20年8月19日

【情報提供票より】(20年 5月 1日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 16年 10月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	14 人 非常勤 4 人 常勤換算 7.8 人

## (2)建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000~45,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	250 円	昼食 450 円
	夕食	300 円	おやつ 円
または一日あたり1,000円			

## (4)利用者の概要(5月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	3 名	要支援2	名		
年齢	平均 84.8 歳	最低	69 歳	最高	96 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	慈愛会今村病院分院・ふるたクリニック・市来歯科
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市郊外の住宅街に立地しており、周囲に大型スーパーや商店街があり、利便性に恵まれた環境の中に通所介護・宅老所と併設されているグループホームである。運営者の思い(高齢者数の多い地域のニーズに応え住み慣れた環境の中で心身のフォローに努め、地域医療と地域福祉に貢献する)を管理者・職員は一つにして認知症のお年寄りの安心と誇り、自信をもたらすために、その人がそれまで慣れ親しんだ暮らし方を継続する事の大切さをホームの運営の原点に置いている。また職員は自己研鑽に励みながら、ケアの目標を共有し利用者に関わっている。地域の運動会や小・中学校の文化祭への参加見学・応援、保育園児との交流、福祉会館で催される健康体操・発表会に出品する作品作りなど多くのなじみの人と地域資源、家族などの関係を築き支えられている。地域ナンバーワンを目指したグループホーム運営の充実が期待される。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	市の担当者に運営、サービス(生活保護利用者等)について相談したり、行政からの依頼に応じるなど連携を図っている。地区グループホーム協議会に加入し、他事業所の職員と勉強会や運営内容の意見交換を行い交流や相互訪問など行っている。課題の改善に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者・管理者・職員は評価の意義について話し合い、全職員で自己評価に取り組み居住空間の環境整備(臭いやシミなど)についての意見が出されている。ケアサービスの向上と振り返りの機会としてとらえて、改善に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は年2回行われている。家族会を兼ねて開かれており、定期的な会議は開催されていないので、年1回の自己・外部評価の効果を高めるための取り組みや改善経過のモニター役として、運営推進会議の必要性を重視し、幅広い人々の参加を呼びかけ、定期的開催される事が望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族会時に意見交換を行ったり、無記名による家族アンケートを行っている。出された要望などはミーティングで話し合い運営に反映している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に参加している。ホーム便りを回覧したり、地域の行事に参加している。近くの民家の招きで柿ちぎりや芋ほりに出かけている。また地域の方による詩吟や絵画教室のボランティアや災害時の協力関係もできており、交流は盛んに行われている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時にスタッフの意見を集約し利用者がこれまでの生活を継続できるように寄り添いながら生活し、地域の人達との深い絆を結べるように支える理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の目につく場所(ホール・洗濯場)に明示している。管理者は常に全体会議や申し送り時に理念を生きた方針として語っている。職員は理念を原則として共有しながら、日々のケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入している。ホーム便りを回覧したり、地域の行事に参加している。近くの民家に柿ちぎりや、芋ほりに出かけている。また地域の方による詩吟や絵画教室のボランティアや災害時の協力関係もできており、交流は盛んに行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は評価の意義について話し合い、全職員で自己評価に取り組み、居住空間の環境整備(臭いやしみ)についての意見が出されてケアサービスの向上の振り返りの機会としてとらえている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年2回行っている。家族会を兼ねて開かれており定期的な会議は開催されていない。		年1回の自己・外部評価の効果を高めるための取り組みや改善経過のモニター役として、運営推進会議の必要性を重視し幅広い人々の参加を呼びかけ定期的に開催される事が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政からの依頼に応じたり市の担当者に運営、サービスについて相談しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便りを配布している。面会時・家族会開催時・電話などで日々の暮らしぶりや身体状況を報告している。金銭管理は立て替えのシステムで行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会時に意見交換を行ったり、無記名によるアンケートを行っている。出された要望などはミーティングで話し合い運営に反映している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員と利用者、家族などとのなじみの関係を重要視したケアを心がけており、隣接にある関連事業所の職員も家族会の際に紹介し、コミュニケーションがとれている。また異動の場合はダメージを受けないように十分な説明をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画があり、外部研修は段階に応じた研修に参加している。また月1回課題を設けて勉強会を行い職員の技術の向上に努めている。新職員には研修を十分に行ってから夜勤についてもらっている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区グループホーム協議会に加入している。他事業所の職員と勉強会や運営内容の意見交換など行い交流や相互訪問など行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の際には自宅へ行き、本人と面談したり家族など・ケアマネージャー・主治医などからの生活状態や思いを十分に聞いている。また、なじめるようにホームを見学してもらい十分な説明をし、信頼関係を築き、不安なく入居できるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしなが喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は個々の生活リズムを大切に、寄り添いながら一人ひとりの得意とする(料理の方法や、梅干漬け、レクリエーション、畑仕事)ことなどしてもらう中で、教わったり、お礼の言葉に励まされながら支えあっている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向の把握に努めるために、常に対話する事に心がけてコミュニケーションをとっている。また動作や表情からも察知するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の状態や生活歴、希望を把握し家族などの思いを聞き、カンファレンスで職員の気づきや意見を出し、それらを反映した本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月毎の見直しをしている。状態変化に応じてモニタリングを行い、カンファレンス時に評価をして見直しに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制もとり、本人・家族などの状況に応じて病院受診や墓参り、特別な外出など必要な支援を柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族などが希望するかかりつけ医の受診が継続できるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対して、家族・医師・看護師を交えて話し合い職員も共有している。ホームが支援できる内容の充実した指針が作成されている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の意識向上を図るため、尊厳への配慮について勉強会をしている。利用者の誇りやプライバシーを損なわないように、声かけや対応に留意している。職員採用時の誓約書もとっている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・起床・就寝・昼寝・レクリエーション・散歩などその人の心身の状態に留意しながら、本人の希望や状況に応じて柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物や野菜の下ごしらえ、配膳、下膳などできる事をしてもらいながら、職員も一緒に楽しく食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は一応決められているが、利用者の希望や身体状況に合わせて支援している。またシャワー浴・足浴・清拭もしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯・掃除・計算ドリル・風船バレー・三味線・詩吟・絵画教室・畑仕事(草取りや収穫)など利用者の趣味や特技を発揮できるようにしている。またドライブや外食、友人との交流、自宅訪問など気晴らしの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩、近くの民家へ出向き柿ちぎりや芋ほりなどに出かけている。また季節に応じ花見・カラオケ・ソーメン流し・クルージングなど、なるべく出かけて閉じこもらない支援に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかける事の弊害を理解している。プライバシーに配慮しながら見守り、安全に自由な暮らしができるように支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の指導のもと、昼・夜間を想定した避難・防災訓練を職員・利用者・家族などと一緒に行っている。また自家発電・地下水の確保もできており、災害時の備蓄もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量の記録と月1回体重測定を行い、一人ひとりの状態に応じた摂取量の確保ができるように支援している。身体状況に合わせてトロミやおかゆなど取り入れている。栄養バランスは関係医療機関の栄養士の献立を参考にしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居住空間は清潔で換気扇が24時間作動している。室内に温度計や洗面所にはジェットタオル・鏡にカバーをするなど配慮がなされている。慣れ親しんだ季節行事の装飾や家具類など工夫が行き届き、利用者はゆったりと過ごしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ・冷蔵庫・ソファや椅子・仏壇・三味線・家族写真・タンスなど使い慣れた物品が持ち込まれている。また利用者の希望に応じて和・洋の居室選びもできるようになっており、安心して生活を楽しんでいる。		